

令和4年5月26日開会

令和4年5月26日閉会

令和4年度第1回猪名川町総合教育会議 会議録

猪名川町教育委員会事務局教育振興課

令和4年度第1回猪名川町総合教育会議 会議録

1 日 時 令和4年5月26日（木）午後4時～5時30分

2 場 所 猪名川町役場第2庁舎2階 委員会室

3 出席者

○町長部局

岡本町長、森企画総務部長、平井企画政策課長、小山総務課長、橋本企画政策課主幹

○教育委員会部局

中西教育長、田尻教育委員、北垣教育委員、渡瀬教育委員

○事務局

曾野教育部長、澤教育振興課長、岩木学校教育課長、石田学校教育課参事、井ノ上学校給食センター所長、奥村教育振興課主幹

4 欠席者

○教育委員会部局

森口教育長職務代理

5 傍聴者

○なし

6 付議事項

〈報告事項〉

第1号 令和4年度予算概要について

〈協議事項〉

第1号 段階的な給食費無償化の調査・検討について

第2号 猪名川町文化体育館における指定管理者制度導入の是非について

1. 開会

(澤教育振興課長)

それでは、定刻となりましたので、只今より、令和4年度第1回猪名川町総合教育会議を開催いたします。

初めにご報告であります。本日、森口教育長職務代理より、ご都合によりご欠席と報告をいただいております。

この場で、ご報告させていただきます。

それでは、開会にあたりまして、岡本町長よりご挨拶申し上げます。

(岡本町長)

皆さんこんにちは。本日は、令和4年度第1回猪名川町総合教育会議と言うことで、ご案内を差し上げたところ、教育委員におかれましては、ご多忙のところお集りいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃は、猪名川町の教育行政にご尽力を賜りまして、ありがとうございます。

本日は、令和4年度の予算の概要について報告させていただいた後、一点目といたしまして、「段階的な給食費無償化の調査・検討について」をテーマとさせていただきます。給食費の無償化につきましては、国の方で、2017年度文部科学省の方が学校給食費の無償化等の実施状況調査があり、その折には、3万人未満の比較的小さな自治体で導入が進んでいるところで、だいたい5%ぐらいの導入状況でございましたけれども、以降、今現在、兵庫県内では、相生市、たつの市、明石市というようなところ、2022年度今年度からは、加西市が導入をしております。

姫路市につきましても、子供が3人目からとして進めているようでございます、子育て世代にやさしい支援策と言うことで、ちょっと私の選挙公約となっておりますので、この件、取り上げさせていただきました。

それと次に、2点目として、「文化体育館における指定管理者制度導入の是非について」を取り上げさせていただきました。将来の猪名川町の子供達への支援の在り方や、あるいは、文化体育館の利用者の利便性が向上できるかと言った点で、皆様と一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございます。

(澤教育振興課長)

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。まず、本日の会議次第でございます。次に、本日報告事項第1号の説明に用います資料、主要事業説明書、猪名川町予算概要でございます。不足がございませんでしょうか。

それでは、以後の進行につきましては、「猪名川町総合教育会議設置要綱」第4条の規定に基づき町長が議長となりますので、よろしく願いいたします。

(岡本町長)

はい、それでは、以後の進行につきまして、議長である私の方で進めさせていただきます。本会議は、「猪名川町総合教育会議設置要綱」第6条の規定により公開となっております。事務局、傍聴の申出はありますか

(奥村教育振興課主幹)

ありません。

(岡本町長)

傍聴の申出はありませんでした。ないと言うことでしたので、早速、議事に入りたいと思います。それでは、お配りしております次第に沿ってこの会を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、報告事項第1号令和4年度予算概要について、総務課に説明を求めます。
よろしくお願いいたします。

(小山総務課長)

はい、すいません総務課長の小山です。よろしくお願いいたします。それでは、猪名川町におけます令和4年度の当初予算の概要につきまして、ご説明をさせていただきます。

説明につきましては、お手元にお配りをしております予算の概要、A4縦の方を説明させていただいた後に、別冊の主要事業説明書令和4年度重点事業を中心に説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、予算の概要P.4をお願いいたします。

令和4年度当初予算会計別集計表でございます。まず、(A)欄、令和4年度一般会計予算総額11,098,000千円、右隣(B)欄、令和3年度当初予算と比較しますと、(C)欄、373,000千円、率にいたしますと、3.5%の増額となり一般会計予算といたしましては、過去4番目の規模となっております。

新年度につきましては、橋りょう長寿命化事業や前年度に続き新型コロナウイルスワクチン接種に取り組むことから予算全体で増額となっております。また、その下4つの特別会計を掲載しており、まず、国民健康保険特別会計は、被保険者は減少しておりますものの、療養給付費が増加したため前年度比で、60,472千円、率にして1.8%増となっております。次に介護保険特別会計では、被保険者数の増加、介護サービス給付費等の増によりまして、前年度から率にして1.3%の増加、次の後期高齢者医療保険特別会計では、被保険者数の増加に伴うからの療養給付費負担金等の増加により、率にして前年度比6.8%の増となっております。次の奨学金特別会計ですけれども、26,367千円、前年度に一般会計からの繰り入れによる基金積み立てを行っていたことから前年度比では、16.0%減となっております。以上、特別会計の合計といたしまして、6,776,594千円、前年度比147,049千円、率にして2.2%

の増となります。その下、水道事業会計及び下水道事業会計二つの企業会計を併せた令和4年度当初予算の総額20,794,453千円、令和3年度当初予算と比較しますと、628,335千円率にして3.1%増となっております、予算規模としましては、過去最大規模となっております。

次に、P.6をお開き願います。こちらにつきましては、一般会計の歳入の内訳をお示ししております、歳入をそれぞれ「款」ごとに整理したものでございます。一番上「1款 町税」につきましては、3,775,859千円、産業拠点地区による固定資産税の増収を見込みまして、前年度から16.5%の大幅な増を見込んでおります。次に町税以外のもので、その下「地方譲与税」から各種交付金、いわゆる一般財源といわれるものですが、こちらに関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響下にありながら新しい生活様式による一定の消費や業績が落ち込んだ企業の一定の消費や回復を見込みまして増加傾向となっております。町税を含めまして、これら一般財源の増加を見込んだ影響からいわゆる地方公共団体の財源調整機能と言われます地方交付税また、臨時財政対策債の合計は減少することとなっております。具体的に申しますと「11款 地方交付税」2,635,000千円、前年度と比べ200,000千円、率にすると、8.2%と大幅な増を見込んでおりますけど、かたや「22款 町債」こちらに含まれています臨時財政対策債、これは地方交付税の国の財源不足に対しまして、発行可能とされる地方債ですが、こちらが前年度と比べますと467,700千円減少となっております、これらを差し引きますと250,000千円程の減少となっております。その他、戻りまして「15款 国庫支出金」が、橋りょう長寿命化事業や新型コロナウイルスワクチンや予防接種に係る補助金で、前年度から224,054千円の増、その下「19款 繰入金」は、町税や交付金の増額に伴いまして基金の繰入を抑制している関係上、前年度から218,870千円の減少と財政の運営の安定化を図っております。以上、一般会計歳入総額11,098,000千円となっております。

続きまして、P.10一般会計予算の目的別内訳でございまして、ここでは、歳出予算を費目別となっております、主なものだけ説明いたします。「2款 総務費」ですが、1,267,711千円、前年度から0.7%の微増となっております。主な内容としましては、航空写真撮影の業務委託、役場本庁舎防水工事、地理情報システム(GIS)等で増加の要因がありますが、選挙執行回数が前年度と比べ3回から1回に減少するため総務費全体では、微増となっております。

次に、「3款 民生費」3,626,538千円、前年度から2.2%増となっております。主な内容といたしまして、施設型給付事業が前年度から35,000千円の増、また、障がい福祉サービス27,000千円程度の増、また、各特別会計への繰出し金3会計42,000千円の増となっております。

次に、「4款 衛生費」1,222,930千円、前年度から5.8%増、主な内容といたしましては、新型コロナウイルス接種事業128,000千円、前年度から59,000千円の程度の増、「5款 農林水産業費」318,995千円、前年度から27.7%増、主な内容といたしまして、土砂災害対策費で新たに栃原地区で実施する治山事

業42,000千円程度、その他、農業用施設改良事業35,000千円程度の増となっております。

次に「7款 土木費」1,112,723千円、前年度から16.7%増、主な内容は、橋りょう長寿命化事業196,500千円、160,000千円程度の増となっております。

「9款 教育費」1,826,281千円、前年度から3.2%増、主な内容としたしまして、学校教育のICT関連事業118,515千円、前年度から11,142千円増、また、文化体育館大ホール吊りもの装置改修66,000千円、さらに清陵中学校開校のためスクールバス運行委託料29,040千円、再編に伴う生徒の支援として学校再編時生徒支援員1名の配置、3,355千円を計上してございます。

「11款 公債費」883,969千円、前年度から1.4%減、前年度の地方債の借り換えに伴う一括償還を行ったためであります。この影響を除いた実質の比較では、13.5%増加となっております。以上が一般会計予算の目的別内訳でございます。総額が11,098,000千円、前年度比3.5%増加でございます。

次にP.15、一般会計地方債の年度末残高の推移、いわゆる町の借金の残高は、下のグラフを見ていただきますと、特に令和元年度以降は、災害に対する復旧事業や学校施設整備（空調設置、白金小学校改修、清陵中学校開校準備）で、大規模事業が重なったことにより地方債の残高は増加傾向となっております。また、地方交付税に代わる財源として臨時財政対策債は、国の地方財政計画に基づきまして、令和4年度は大幅な減額を見込んでいることから、令和4年度地方債の合計、町の借金が8,669百万円となっております。

次にP.16、一般会計基金の年度末残高の推移、いわゆる町の貯金の年度末残高推移は、令和3年度の見込みといたしましては、4,027百万円、令和2年度から259百万円の増加、これは、地方交付税の追加があったもので、新型コロナウイルス関連の地方創生臨時交付金があったことや、新型コロナ下で、各事業が中止となったことから財政調整基金、減債基金の積み立てが増加したことが要因であります。なお、令和4年度は、3,505百万円を見込んでおります。

続きまして、P.25をお願いします。これ以降につきましては、当初予算一般会計の主要事業を第六次猪名川町総合計画に体系に沿って記載してございますので、これは後程ご照覧いただければと思います。以上が本町の令和4年度当初予算の概要でございます。

続きまして、別冊の主要事業説明書をご用意ください。A4横カラーの分になります。開いていただきまして目次がございます。新年度に特に重点的に取り組む大きな柱としまして、「シティプロモーション」、「安全・安心のまちづくり」、「デジタル化推進」の三つ項目を挙げております。また、それぞれの項目の中に具体的な事業を8つ掲げております。それでは、各事業の概略を順次ご説明いたします。まず、P.1シティプロモーションの取り組みといたしまして、「#（ハッシュタグ）猪名川町を知ってもらおう大作戦」ということで、猪名川町の知名度アップを図る新たなプロモーション事業を展開

して参ります。本町は、都市近郊にありながら豊かな自然環境を有し、さらに充実した子育て支援や教育環境など多くの魅力があるにも関わらず、知名度が決して高くなくそれらの魅力を伝えきれていない現状がございます。そこでまず、その名の通り猪名川町を知ってもらおうと言う目的から、新規で2つの事業を実施します。一つ目として「ファミレス店内広告」予算額は、2,233千円でございます。移住のターゲット層で子育て世代に普及出来る広告媒体として、ファミリーレストランのテーブルステッカーによる公告宣伝を大阪府エリアを中心に展開して参ります。また、二つ目、若者から子育て世代に中心に人気のあるユーチューブに着目いたしまして、参加型広報動画「ユーチューブコンテスト イナガワ」を開催いたします予算額は、2,200千円でございます。動画を作成する人も見る人もこのコンテストを通じて、猪名川町を知り興味を持っていただく機会を創出して参ります。また、これまで通り広報動画「きらっといながわ」も魅力的な内容で猪名川町をPRして参ります。これらの総事業費5,148千円を計上しております。

続いてP. 2シティプロモーションの二つ目の取組みといたしまして、「お試し居住支援事業」本町への移住促進や移住後の生活スタイルのミスマッチを避けることを目的に「お試し居住支援事業」の補助制度を新設します。移住を検討している町外居住者が、本町での暮らしを体験するために町内の指定宿泊施設、これは2カ所を想定しております、こちらに泊まる場合に一泊一人当たり4千円を上限といたしまして、宿泊費の1/2を補助します。滞在中にどのようなライフスタイルを希望しているか積極的にヒアリングを行い猪名川町での具体的な生活のイメージを持ってもらえるよう希望に応じて現地案内などを行います。また、滞在期間終了後も移住に向けた様々な情報を提供し円滑に移住出来るようサポートを行って参ります。必要な予算としまして、400千円を計上しております。

続きましてP. 3をお願いいたします。大きな柱の二つ目「安全・安心のまちづくり」の内、一つ目取組み「防災対策事業」でございます。事業総額26,680千円になってございます、特に令和4年度新たな取組みといたしまして、昨年完成しましたプロロジスパーク猪名川におきまして合同の防災訓練を実施いたします。これは令和元年度6月に締結しましたプロロジスとの防災に関する協定書に基づきまして、訓練の具体的な想定としましては、防災広場の施設の一部を使用して大規模災害時における関係機関の参集、駐留の訓練、そして、ドローンを活用した訓練等を考えております。

その下、安全安心のまちづくりの二つ目の取組みといたしまして、「交通安全対策事業」でございます。総事業費は、9,599千円でございます。特に令和4年度新たな取組みといたしまして、信号機の設置が困難な横断歩道におきまして、歩行者横断する意思を視覚的に示すため横断者注意喚起灯を県内初の試みといたしまして、試行的に1カ所設置いたしまして、歩行者の安全確保に努めていきます。日生中央駅前の交番の前に既に4月に設置しておりますけれど、今後、増設するか等検討してまいります。

続きまして、P. 4をお願いいたします。安全安心のまちづくりの三つ目の取組みといたしまして、「災害への対策」ハード事業として二つを掲げております。まず、ページ

左側、治山事業でございます。昨今の災害の激甚化により全国で山地災害が頻繁に発生していることを踏まえ、町内の土砂災害特別警戒区域に指定された朽原地区について対策工事を実施します。事業費といたしまして、42,020千円を計上しております。次、右側、河川浚渫事業でございます。洪水による水害を防止するため町が管理する河川農地の堆積した土砂など大雨時に河川氾濫する恐れがあるためそれらを撤去する工事を行います。令和4年度におきましては、笹尾地区にある平井川の浚渫工事を行います。事業費といたしまして、11,000千円を計上いたします。

続きまして、最後のページP. 5をお願いいたします。最後に大きな柱の三つ目「デジタル化推進」の一つ目、「地理情報システム（GIS）整備事業」でございます。町内各部署が所有いたします位置に関する情報を加工管理いたしまして、視覚的に表示できる地理情報システム（GIS）を整備いたします。これによりまして、コロナ禍でも住民や事業者がインターネットを通じて猪名川町の地理情報を入手出来るようになります。例えば、猪名川町で事業を考えている方が、今までのように窓口に来庁して図面を確認する手間がなくなると共に、コロナ禍において接触機会の軽減が期待されます。また、役場庁舎内でも都市計画図等の地理情報を共有することで、業務の効率化を図ることが可能となります。必要な事業費といたしまして、8,535千円を計上しております。次に、「デジタル化推進」の二つ目として、「文書管理・電子決裁システム整備事業」でございます。役場の業務におけるペーパーレス化及びテレワークの取組みを推進するため、「文書管理・電子決裁システムの導入準備」に着手します。現在、役場の業務は紙文章で行われておりますけれども、これをデータ化することで、紙使用量の削減や文書の保管場所の小スペース化を図るとともに、事務効率の向上が期待出来るものであります。併せて電子決裁システムを導入することで、事務の迅速化、テレワークの更なる推進に繋がるものと考えております。具体的なシステムの導入時期につきましては、令和5年度からを目指しておりますが、令和4年度から作業に入りますことから債務負担行為限度額といたしまして、令和5年度から9年度で47,060千円を計上いたしております。

以上、ご説明いたしましたものが、令和4年度予算にかかります主要事業でございます。時間の都合上、本日説明していない事業につきましては、先ほどの「予算概要」に記載しておりますので、ご覧いただきたいと思っております。以上、猪名川町令和4年度当初予算の概要の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

（岡本町長）

ありがとうございます。只今、猪名川町令和4年度の当初予算の概要と、主要事業の説明をいたしました。私にとりましては、初めての予算でありますので、とりわけ、「シティプロモーション」猪名川町をまず知ってもらおうという事、それから「安全安心のまちづくり」、一番人間にとって住民にとって大切なキーワードだと思っています。それから国が積極的に進めております「デジタル化の推進」この三つ柱を中心に政策の主要としております。よろしくお願いいたします。早速ではございますが、それぞれの委

員の皆さんに伺いたいと思いますが、教育の関係につきましては、予算の概要P. 25 学校教育施設修繕事業で建物の老朽化改修、それから教育情報化推進が中心となった取り組みとなっております。それでは、北垣委員から予算の関係でご意見をお願いいたします。

なお、予算について、ここがわからないなど、不明なところがあればご意見いただきたいと思いますが、「交通安全対策事業」の横断者注意喚起灯について、日生中央交番のところですが、兵庫県は、年に100基設置されておりましたが、今は年に10基の設置されるのがやつのことで、県での設置されているものも含め見直し作業を行っているとのことで、場所によっては取り外しているとのことで、なかなか新しく信号機の設置をされることが難しい状況の中で、信号機に代わるものとして、本来、横断歩道は歩行者優先ですが、車を運転されている方への注意喚起するために、この場所で事故もありましたので、試行的に設置させていただきました。

(北垣委員)

実際に、日生中央交番前を私はよく通ります。昔に比べて横断歩道前で止まる車は増えましたけど、家族でその場所を通ることもありますが、中々止まってくれない。実際この横断者注意喚起灯を実際に使っている人を見ない。広報に掲載されていましたが、もっと認知をされるためにPR出来ればいいかと思います。あとは、緑の線が入っていることがすごく目立つのを実感しているので、この横断者注意喚起灯だけではなく、緑の線が入っていることで、車が止まらなければならないことが認知され効果があるのであれば、今後、それらを含めて考えて設置してもらえればと思います。

(岡本町長)

聞くところの話では、兵庫県も知事が代わられて財政事情がおもわしくない状況の中で、横断歩道で車が止まってもらうため、横断歩道の線が消えている部分を応急処置でスプレーを持って塗っていることを今年度から始められたと川西警察から聞きました。予算が限られた中で、子ども、高齢者、皆さんの交通安全のためこれからもお願いしたいと思います。

お一人ずつ、ご意見をいただきたいと思いますが何かあるでしょうか。田尻委員ご意見あるでしょうか

(田尻委員)

新しい取り組みが色々あるので、夢が広がると思いながら拝見していますけれども、「お試し居住支援事業」の指定宿泊施設2カ所はどちらですか

(企画政策課 橋本主幹)

企画政策課 橋本です、よろしく申し上げます。現在、業者との調整や手続きが完了しておらず、実際には制度としては、スタートしていないのが実情でございますけれど

も、この制度設計をする時点で、町内の宿泊施設へ訪問させていただいて、メープル猪名川、民泊ウィズナチュレさんこの2カ所と事前に話をさせていただいておりました、その資料につきましては、2月の記者発表の時点で2事業者とさせていただいております。この後、事業者さんと具体的な進め方や宿泊メニューを作ってくださいなど事業者と調整を進めて行きたい。想定していたより、少し遅れている状況です。

(岡本町長)

民泊の場所は、尼崎青少年の家付近(槻並)で、今は、太陽光発電パネルが多くあるところに民泊の施設がございまして、こちらの方にお泊りいただくイメージと、もう一つは、遊び感覚で利用されないように注意しようかと、いうところがポイントです。これを利用して猪名川町で一泊又は2泊遊ぼうではなくて、まじめに猪名川町に引っ越しを検討され、農業などを紹介していく、そのようなイメージを思っております。そうしましたら渡瀬委員お願いします。

(渡瀬委員)

これから町の広報に色々力を入れていくとのこと、大阪の店内広告、ステッカーを貼られて反応はあったでしょうか

(企画政策課 橋本主幹)

こちらは、すかいらくグループ、具体的に言いますとガスト・バーミヤンといったお店となるんですけども、そちらのテーブルにステッカーを貼ることを予定していますが、貼る時期が7月14日から2週間の予定です。すかいらくさんが店内広告、インスタ広告と言いますが、2週間単位というところですので、今回、展開がファミリーレストランですので、やはり広範囲で、夏休みいわゆる長期間というのが利用者がやはり多いということを聞いてますので、将来的には繋げたいと思っている事業となりますので、今回の移住ターゲットである子育て世代、こちらをターゲットとした、広告ステッカーですとかを、今、広告のデザインを事業者さんと協議して、進めているいうところがございます。7月14日以降の大阪と兵庫、阪神間の南部、東部の一部、このあたりで、合計90店舗を予定しています。大阪で67、兵庫県で23の店舗で展開しておりますので、その時期にはいただければと思います。

(岡本町長)

人間の引っ越しのイメージとして、例えば南海沿線の人がこの猪名川町にやってくるというよりは、むしろ宝塚沿線の人が猪名川町にやってくる。可能性が高いか。ですから、その可能性が高いところにポイントを絞って、広報を打とうという考え方に基づいて、今回試行的に、とりわけ、我々が来て欲しい年代、子供さん連れのもということで、ファミリーレストランを一つ選びます。

もう一つは、YouTubeの方の関係の事業も、僕は宝塚沿線上、とりわけ梅田に

ですね、猪名川町の大きなポスター貼ったらええんちゃうかというような発想を持ってたんですけども、「いえいえ町長、この頃そんなポスター見る人はいてません。どちらかという、例えば、紀伊國屋の前のビックマンの前でも、みんなその周りを見ると、スマホを触ってますよ。」と言われ、要するに、20代、或いは30代の方が情報収集するのに、やっぱりSNSというものの占める割合が、我々の20代30代のころと、圧倒的に違う。大きくなってるので、そのあたりのところにもですね、力を入れていってみよう。

一つの転換期が来てるかなと。そういう意味で、ちょっといろんな試みをさせていただいてる、というような状況でございます。また、成果が上がれば、広げていきたいという感じで思っています。また皆さんの方からもいろいろなアイデアをいただいたらありがたいかなと思います。

そしたら、この予算の関係、他になれば、ちょっと今日二つほど協議議事項を用意しておりますので、進めさせていただいてよろしいでしょうか。

教育長何かございません。

(中西教育長)

特にございませぬ。

(岡本町長)

そしたら早速でございますけども、協議事項の第1号、「段階的な給食費無償化の調査検討について」、これ私の公約でございます。選挙公約でございます。また、協議事項第2号、「猪名川町文化体育館における指定管理者制度導入の是非について」というのは、これ私の方から教育委員会での指示事項ではありますので、私から、合わせてこの2点についてご説明させていただきます。

まず段階的な給食費無償化の調査の検討についてでございますけれども、これは私の選挙公約の中で、子育て支援や定住促進策の一つとして掲げていたもので、段階的な小学生の給食費無償化について検討していただきたいと考えております。

さきの文科省の調査によりまして、やはり子育て支援、或いは定住促進策というような、期待感を持って、この事業を導入されているのは、比較的小さな自治体というような状況になっております。段階的といいますのは、例えば姫路市さんのように、3人目の子供さんからというようなケースもございますし、いろいろな形での部分が考えられると思っております。猪名川町に住む魅力をアップし、若い世代を呼び込み、活力の維持を目指すもので、特に子供の成長を町全体で応援し、子育てにかかる経済的負担の軽減や、安心して子育てができる環境を整えていきたいというふうに考えております。その中で、子供の成長を支える学校教育に着目したところでございます。

猪名川町、おかげさまで早くから、学校給食を導入していただいております、その結果としてですね、やはり女子生徒さんといいますか、骨太といいますか、そういうふうな成果も出ているように聞いてます。嫌がおうにも牛乳を飲んでカルシウムを、とい

うような方かもわかりませんが。直接ですね、給食費の無償化とは関係がないのかもわかりませんが、学校給食におきましては、給食食材の地産地消ということ 키워ワードに、また食を通じて地域への愛着を深め、地域のことを知ることは、とても教育的に意味を持つものと思います。

或いは、「シビックプライド」と言うんですか、「地域への誇り」というものを養ってもらえばいいなと思ってます。ぜひともこの教育委員会でも、段階的な小学生の給食費の無償化についての調査検討を行っていただきたいと思ひまして、このことを上げさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

それから、2点目はですね、猪名川町文化体育館におきます、指定管理者制度導入の是非についてでございます。文化体育館の指定管理者制度導入の是非につきましては、すでに教育委員会から社会教育委員の会へ諮問されているところでございます。指定管理者制度は、平成15年度の地方自治法の一部改正によりまして、地方公共団体の公の施設の管理運営を行う、事業者等を指定管理者として指定することにより、民間のノウハウを活かしつつ、サービス、住民サービスの向上と経費の節減等を図ることを、目的とした制度でございます。

本町におきましても、もうすでにスポーツセンターや、B&G海洋センター、総合福祉センター、大野アルプスランドなど、現在10ヶ所の公共施設において指定管理者による管理運営を行っており、事業者による、創意工夫や、もともと持っておられるノウハウを生かした取り組みが進められているところであります。

文化体育館につきましては、町において様々な催し会場として利用しており、また、会議イベント等の開催場所として確保するといった側面などから、現在は指定管理者の導入は見送り、直営方式を採用しているところでございます。

今後住民ニーズの変化への対応や、施設の効率的な運営を見据え、町として、より望ましい施設の運営方法として、再度指定管理者制度の導入の是非について、課題も含めて、整理いただき、ご検討いただきたく考えております。

この2点につきまして、よろしくお願ひいたします。

説明は以上でございます。

私から申し上げたことに関しまして、まず質疑をいただければと思います。教育委員の皆様から、それぞれご発言をいただきたいと思ひます。

まずは順番に、協議事項第1号の「段階的な給食の無償化の調査検討について」を議題に上げさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

(渡瀬委員)

今、お話いただいて、猪名川町の魅力発信ということで、よくわかった。

ただ、給食費無償化、町長が公約入れられるのですが、その予算をどっからとられる予定なのか。気になるところなので

(岡本町長)

内容的には今後精査していく必要があるかと思いますが、幸いなことに、プロロジスの関連で、この間もテレビのニュースで流れてたかと思うんですけども、MonotaROさんが実質的に動き始めた、というようなことで、いわゆる、そういう資産の関係の税金が確保できると、いうふうな見通しを立てております。

一方で、このところ、毎年のように、基金を取り崩してやってきた部分についても、この機会に「入」と「出」を調整しながら進めていく必要があるんですけども、その辺のところ、ある意味、段階的という表現を使わしていただいているのは、歳入と、歳出の見込みを考えながら、調整していきたいというふうに思っております。

(渡瀬委員)

3月の時にですね、議会が始まって、町長の初めて施政方針を語られた時に、結構ICTとか、情報のことに関してすごい議員の先生方から質問がたくさん出てたんですが、やっぱり住民の皆様も、今、コロナ渦でようやく落ち着いてきて、子供たちも運動会の練習とかしてる中で、やっぱり非常にそういったことに関心度が高いなっていうのは印象で受けまして、いち早く事務局の方で、先ほど予算、前年に比べたら、予算、教育費、ICTとか情報というように上げてるのも、やっぱりその辺の保護者は、これから子供たちどうなのかなあとかいろんな思いがあって、予算をもってそこに対応が今できて、結構学校でもその研究校とか指定がなされてまして、そのうちらもうほとんど4校指定してる中三つは、そのICTとか情報関係で、やっぱりすごいなあと。猪名川町の皆さん、業務の情報化、ICTをどう活用してかっていう事業、に対して、やっぱり興味があるなあとというふうに、感じてて私はそこに注意をしていかないと、と思っています。

僕も北部に住んでるんですけど、若い世代の方に定住するなんてことはしてないと。ただそこでしっかり住んでいただいて、地域の活動なり、ここに住んでよかったな、その方々が自分らでYouTubeなりで、猪名川町のよさを発信してもらえたらいいなあとと思うので、何か予算のところしっかり確保したいなと思っています。

ただ、限られた予算で事務局の方々も必死で予算をやりくりしているので、それができれば、財源が、非常に限られた中でも町長も、営業活動しっかりされてると思うんですけど、またその辺も重きを置いていただいて、その猪名川町の教育の魅力の一つとして、つなげていただけるようにしてもらえたら非常にありがたいです。

今、若い世代を呼び込むために大野山も恋人の聖地とかなってますんで、そういう若い世代が定住できるような施策とか、一緒に広報とかでやる中で、していただければいいなと。

(岡本町長)

古い言い方もわかりませんが、「子は宝」というようなことがあります。

子育てについて、町挙げて支援していくような仕組みづくり、仕掛けを作っていきたいなと思っています。

もともと中学校給食、特にお隣の川西市と比べてというような形になるのかもわかり

ません。いろんな面で、子育てに力を入れている猪名川町です。だんだん、その差別化といったらおかしいですけども、川西市さんも、中学校の給食を導入されるということでだんだん差の分が薄くなって、何らかの形でこれまたというような思いの部分、一つ。もちろん、財政の調整をしながらやっていく、メリハリをつけて、優先順位をつけてやっていくと、当然のことだと私も思っておりますので、ICTの予算削ってという、ような世界ではないと思っています。いわゆる、その世界は日進月歩といいますか、我々が今まで考えていたようなスピードではないスピードで急速に変わりつつありますね。だから、変なこと言う話ですけども、「AI」「AI」、人工知能ですよ。人工知能っていうのが1人歩きしてて、僕はよくわからなかったんですけども、今、例えば、植物があって、その植物の写真を撮ったこの植物が、どんな植物か、これはヒマワリやとかね。これ毒ある植物と、わかるような、その背景にあるのが、何千何万というデータを取り込んだら、その中で何を使い、一番いい具合に、外れのない、99%当たるような形で、機械の中で調整していくぐらいです。従来は、我々は黄色い花とかこう一定の定義をつけながら、そのひまわりということを定義していて、すごく我々の頭の中で構成しなければならなかった。それを機械がやってくれる時代がやってきてますので、だから、ICTとかAIとか、簡単に言葉として使ってますけれども、我々が想像しないような今領域で、それがもう日進月歩に動いてるんで、多分、入れた機械これを更新を迎えるときは、残念ながら陳腐化しているかもわかりませんし、どんどんその世界が広がっている、もう一つは子供たちの、機械に対する扱い方というのが、うちの孫でもスマホを扱って、画面を大きくしたり小さくしたりするのは、もう、1歳なるかならなかでびっくりするほどやりますから。だからそういう時代に、生きている子供たち、一方で、この子供たちには、考える力というんですか。今年度から授業が変わったようなんですけども、「総合的な探求の時間」というのは、今まで学習の時間という探求の時間、自分らで課題を見つけてきて、自分らでその完結スタートを見つけて、こないだ猪名川高等学校で、久しぶりにその先生というのをさせていただいたんですけども、時代が移っているなあという感じました。財源については、プロがおりますので、そこで調整しながら、別に何か売っぱらってやるというようなつもりはしておりません。調整しながら決めていきたい。

(田尻委員)

本質的には渡瀬委員と、私も同じところがやっぱり気になってるんですけど、学校給食そのものが、おっしゃったように地産地消だったり食育に繋がるっていうのですが、それが無償化となると、保護者さんも、今、コロナ禍大変な中で、すごい助かるっていうのもわかるんですけど、私も心配してるのは教育費への影響です。教育の質が落ちてしまうようなことがあったら本末転倒になってしまうっていう心配がある。先ほどの予算の話であったように、移住と教育はすごい繋がりが、大きくなって思ってるんで、学校が選ばれる、選んで来てもらえる町として、教育の質っていうところにはとても重要じゃないかなと思ってるんです。猪名川町で教育を受けさせたいって思えるような町

にしたいと思っているので、そのためにもさっきおっしゃったICTとかデジタルのこともそうですけど、何か命のことだったり心のことだったりっていうような、ソフト面での教育って、なかなかこう、形にしたり、お金で計算するの難しいですけど、そういうところで考える力を注いだみたいなものをつけていってもらったり、子供たちが、自立できるような、道を進めていったりっていう。質をすごく大事にしたいです。

(岡本町長)

基本的な考え方としては同じように思っております。

それが何もバーターのような位置付けにあるものではなくて、より今の状況を充実させていく必要があると。ただ、やっぱり小さな自治体を中心に、3万人以下の自治体を中心に導入されているのは、まずは本当もう、確保しないとそこの議論に移りにくい部分もあるのかなあというようなことを、を思っています。ただこの調査の中でどういふふうな形になるかわかりませんが。

やっぱり給食の無償化を導入する。それは医療費の無償化と同じような感覚の部分もあるのかもわかりませんが、市、市町村が増えているのも事実です。

やめたというような状況よりむしろ増えている。

兵庫県下では、もともと相生市がやっていた。

それ以外にも、ポツポツ増えておまして、今年度はその加西市と、加西市は小中学校ですけども、もう一つは姫路市が、3人目からという、中核都市では明石市、それから以前から相生市やたつの市では分離されてたということで、徐々に増えてきている。2017年度の状況から、徐々に増えてきているという状況の中で、いろいろな調査、検討を進めていきたいなあと思っています。

(田尻委員)

町長のイメージとしてはその段階的なのというところはどんな感じで。

(岡本町長)

私が段階的なのというふうな言葉を使わせていただいたのは、それ使わない方がすっきりするんですよ、正直ね。でもやっぱり皆さんが心配されている財政の問題を、やっぱり頭の中に入れながら、変な話ですけども、子どもの数が、どんどん減っているの、財政面だけ見れば、入れやすくなっていく状況になってきてるんです。

入れやすい状況を作るんじゃないで、子どもはを増やしたいという思いで、導入したいと思ってるわけではあるんですが。

(北垣委員)

私も、財政面とかすごく気になります。もちろん猪名川町が中学校まで給食していただいているのも本当にありがたいことですし、今給食小学生も無償化になりますよみたいな、本当に万々歳なご家庭いっぱいあると思うんですけど、困窮家庭とかで言えば就学支援

っていう、就学援助制度っていうのでは、そこはカバーしているのが実際だと思うんですけども、支払うのがそんなに難しくないご家庭も無償化になるということで、学校の施設の修繕だとか、いろいろね予算たくさんとっていただけてますけど、やっぱ実際学校行くと、もうちょっとここ、直せたらいいのになとか、あとはそのICTに力入れてる中でも、教育の中でもやっぱりまだまだ先生方もこれからいっぱい勉強していかないといけないなそういうところに、そういう研修であったり、そういう勉強そういう支援の先生入れるだとか、そういうプラスで、まだ、いろいろまわしていきたいところは正直あるかなというのは思っているんで、そうなったら、その個人からいただけるお金、学校修繕だとか、先生出してくださいとかいうことはできないんですけど、できないので、その給食時に回すとかで、よっぽどそういうのが十分充実してからはいいんですけど、その全体的に使えるお金をそっちにまわしてしまう前にいろいろしたいこともあるなっていうのは、ちょっと正直なところですよ。

たくさん住んでいただくっていうことで、幼稚園の給食も無償化になって、あとは、医療費がね、中学生までなしでいただけてるっていうので、実際それでどれぐらいね、すごいちょっと手応えがあるのかどうかとか、やっぱその辺もちょっとお伺いしたい。

(岡本町長)

ちょっと手応えについては、後程あるかどうか。

考え方としては、今回いろいろ議論を経て、その考え方整理されていくんだと思うんですけど、医療費にしても、幼稚園までの幼児というんですか、子供たちの給食費にしても、所得制限を設けて、そういう仕組みを作ってるわけでは、猪名川町の場合、ないんですね。

その考え方の背景には、町を挙げて、子育てしていこうやという発想のもとにやってくるものだから、収入の、お金持ちだから云々かんぬんではなくって、みんな同じような形でサポートしていこうというのが、今までの、医療費のサポートであったり、給食費、幼稚園まで、幼稚園、保育園ですね、給食であったりするわけですね。

だから、これも僕は基本的なその延長線上にあるものかなあ。

でももちろん考え方の中にはですね、こういう医療費についても、所得制限をかけて、云々かんぬんというふうな形の部分がありますし、現に、児童手当そのものがですね、所得の関係によって、特別な給付の部分もありますけれども、金額に、違いが出てくるかと。今回のご報告、給食費については、まだ、これまた全然違うという視点か、わかりませんが、Aさん給食費もらうけど、Bさん給食費もらわないというのは、なかなか事務的にも大変ではないかなと思ってますんで、できれば並べての方が、もちろん予算の関係ありますけど、いいのかなと思ってます。

今までの、なんか導入についての成果というか、何かそういう感覚はありますか。

(森部長)

いろいろと成果。ていうのはなかなか数字で測れているものがございません。

アンケート等がちゃんと取れてる部分でございますし、阪神間で、三田市さんちょっと手を下げはったかもわかりませんが、もともと大分医療費の無償化といろいろやっておられますので、その当時は猪名川町含めて、逆にしないと選んでもらえない可能性もあったということで、ついてきているような部分も一部ございます。

ただそれですごく人口が増えたこととか、或いは、子供が増えたかということ、はっきりとしたことはわかりませんが、それで、その減っていくのはひょっとしたら食い止められてるのかもわからない。

またすごく劇的な効果というのは、どこの市でもそうでしょうけれども、見えてない。猪名川町でいえば、それがすごく見えたということはございません。それも含めた、いろんな複合的なまちの魅力を上げていかないといけないのかなというところも一つ思っております。

明石市とか近隣では伊丹市なんかは、やっぱりそういうところ言えばそういう子供の数が、増えてます。それは交通の便とか、いろんな複合的なものがございまして、何かひとつをやれば、人口が増えてくる子どもが増える、じゃないのかなというのはいささか個人的な意見が入ってますけども。

ただ、医療費或いは給食費の方も一つのツールといいますか、選んでもらえるかと思えますけど。これはまたみなさんのご意見をいただきながら、いろんな今さっき言いました予算のこともございまして、町長の思いを公約のことでございましてちょっと、今、何かすぐと言うわけにはいきませんが、そういうことも一つのやり方、というのもありうると思います。皆さんやいろんなご意見を聞きながら、最終的な、判断をしていくことになるのかなと思います。

(岡本町長)

付け加えて、文部科学省が 2017 年度に学校給食費の無償化等の実施状況ということで、全国の自治体に調査している部分がございます。

無償化を開始した目的の部分については、先ほども申し上げましたような、子育て支援とか、保護者の経済的負担の軽減で、その裏には何らかの形で人口増加を期待しているというような、それぞれの自治体、導入された自治体が書いております。さらに無償化による成果として何がありますかというふうなことで、回答を求めておられまして、その中には、自治体への感謝の気持ちのかんようを、栄養バランスのよい食事の摂取や残食を減らす意識の行為を、給食費が未納滞納であることに対する心理的負担の解消、これは児童生徒の部分ですね、保護者については経済的負担の軽減、安心して子育てできる環境の享受、親子で食育について話し合う機会の増加、教育への関心の増加、給食費納入にかかる手間の解消、学校教職員に対しては給食費の徴収や未納、これ、猪名川町の場合は今口座振替になってますから、以前とは変わっております。滞納者への対応負担の解消、食育に関する意識の向上、自治体としては子育て支援の充実、少子化対策、定住転入の促進、食材費高騰による経済増加の経費増加の際、保護者との合意を経ず措置可能とかいうような形の、成果を例として報告されておりますので、

一定のその報告書の中で、こういう成果がありますよという報告はいただいております。それから明石市の泉市長は、やはり盛んに、神戸市、お隣の神戸市意識しながらいろんなことを言われるんですけども、やっぱりこういう給食費の無償化、明石市の場合は中学校の給食費の無償化3年生ですかね。社会にアピールの材料にされています。正直言いましてアピールするのが上手な部分もあるのかもわかりません。そういうふうな状況を今のご質問に対してお答えしておきます。

他に、教育長の方から何か。

(中西教育長)

今日の段階では、若干意見も踏まえておったんですけども、まず今の段階では町長のお考えを、お尋ねするということが趣旨でして、あとは事務局サイドでアンケートですとか、それから視察等も含めて、調査をさせていただいて、そこを踏まえて教育委員会として、いろんな考え方をまとめていって第2回の総合教育会議の場で、意見を、ここで申し述べるということで、今後予定をさせていただきたいと思っております。

(岡本町長)

予算化した予算化というかね、計上した時、この調査を計上した時期と異なりまして、2022年度から、実際にね、導入されているところも出てきましたんで、そこをのぞきに、いっていただいてもいいならいいのかなと。明石だけではなくてね。

というようなことで、次の議題に移らしていただいでよろしいでしょうか。

次の議題はですね、第2号猪名川町文化体育館における指定管理者制度導入の是非についてと、いう中身でございます。これの補足の説明とかあるよね。

よろしくお願ひいたします。

スポーツセンターとかですね、B&G海洋センターなんかに指定管理者制度が入っておりますので、感覚からいったらあれか、ちょっと区別が付けにくいのは、業務委託と言いますが、司令塔の責任が猪名川町にあるのか、この指定管理者になるのかという違いがあるんですけど、そういう方法でやっているところもありますけれども、今のところ、猪名川町では10ヶ所の施設が指定管理施設になっております。

何か唐突でこっちの方は余計に答えにくいかなと思っておりますけれども。

(中西教育長)

町長もおっしゃっていただいたようにこれは社会教育委員の会に教育委員会としてまず諮問してはしまして、並行して教育委員会でも議論はして参りますけれども、少しここも教育委員会としてはお時間をいただいた上で、また町長に教育委員会としての考え方を述べさせていただきたいというふうに思っておりますので、特にご質問があれば。ただ仕組み云々についてはね、別にしてまずは、町長としてのお考えの部分で教育委員会、教育委員会のお尋ねしたいものがあれば、お尋ねするという事で特になければもういいのかなと思っておりますけど。

(岡本町長)

特に強調されるところは、経費の削減というよりは、どっちかというところ、サービスの向上ですね。それから、今やっぱりノウハウの関係で、例えばこういうイベントや事業をしたときに、人に入ってもらい、広報戦略とか、ノウハウとかいう部分も、活用できるのかと。

一方では、今コロナワクチンの会場になったりしてますので、指定管理制度をとった場合に、その辺、よそはどないしてるかという調査的なものが必要になってくるかな。

指揮官が先ほども言いましたように、猪名川町から指定管理者の方に移りますので、その辺のところはあらかじめきっちりルールづくりをしておかないと混乱をしますし、よくありますのは駐車場と込み込みでやって、そこの回転を、次、指定管理者の方で、うまくやってというような絵面もあるんですけど、猪名川町の場合は、駐車場基本的に今無料になってますんでね、そこで収益を上げるというのは難しい。

むしろ自動販売機ぐらいしか上げられないかなと。

質問ありませんでしょうか

以上、二つの点について、今度ご議論いただきたいなあというふうなにも思っておりますし、調査の報告をですね、またここに挙げていただきたいなと思います報告。協議事項は、以上でございますけれども、教育委員の皆様から、そのほか、何かございませう、せっかくの機会でございます。

(渡瀬委員)

すいません。申し上げにくいんですけど教育費の話になってくるんですが、コミュニティスクールがまた今年度からスタートしていて、伊丹の話も出たんですけど、かなり進んでるところはそこにやっぱり費用、そういったまとめたりする事務員さんが設置されたりとか、それからこれから幼稚園も、小学校に上がるにあたってどうすかであるとか、いろいろやるにあたって、またたくさん教育費いただいているんですけども、そっからまたそういったことも考えていただいて、上げていただくなりしていただけたらなあ。

(岡本町長)

はい。

そうしましたら事務局の方から何かありますでしょうか。

(事務局)

事務局から特にございません。

(岡本町長)

特にないようですので、次回開催につきましては、協議案件等が生じた場合、その都度その都度ご案内させていただきますので、いただきますのでよろしく願いいたした

いと思います。

そうしましたら、これもちまして、令和4年度第1回猪名川町総合教育会議を終了
いたしたいと思います。

本日はどうも、ありがとうございました。